

牧草ロールアートで町を元気に！



プエラリエワンスの皆さんが描いた牧草ロールアート（九蔵坂バス停付近）

畜産農家の女性グループ、プエラリエワンス（村澤真澄代表）が、町産業振興協議会などの協力で企画した「牧草ロールアートラリーinくずまき」が9月1日から始まりました。

町内6カ所に設置された牧草ロールには、地域の協力団体や岩手大学生により鮮やかな絵が描かれ、訪れた人の目を楽しませていきます。村澤さんは「丑年にちなんで、町を元気にしたい」と考えた企画に、多くの方々が協力してくれた。皆さんに楽しんでもらいたい」と地域の盛り上がりを期待していました。

アートラリーは、牧草ロールに設置されたボックス内のシールを専用の台紙に貼り、6カ所全て揃うと町の特産品が当たる抽選会に応募できます。台紙は役場や道の駅くずまき高原などで配布しており、応募締切は10月31日（当日消印有効）です。

圃農林環境エネルギー課
☎66-2111内線147



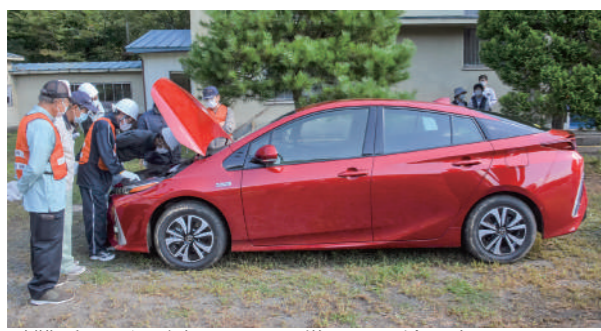
牧草ロールアート設置場所

①道の駅くずまき高原（制作：岩手大学教育学部学生）②消防分署隣空き地（制作：商工会青年部、森林組合青年部、新岩手農業協同組合青年部葛巻支部）③くずまきジェラートクローバー畑（制作：町青年連合協議会）④タカナシ乳業(株)岩手工場（制作：プエラリエワンス）⑤栗村牧場（制作：新岩手農業協同組合青年部葛巻支部）

冬部地区で町総合防災訓練 停電を想定し給電車を配備

令和3年度葛巻町総合防災訓練が9月12日、旧冬部小中学校で行われ、自主防災隊や消防団員など約130人が参加しました。

この訓練は、大雨による馬淵川の浸水被害や急傾斜地の土砂災害を想定し、災害対策本部の非常招集訓練や、自主防災隊による避難所設置訓練などが行われました。



避難所の電源確保のため配備された給電車

体育館に設置された避難所では、プライバシー保護や感染症対策のためのパーティションや簡易トイレなどの設置訓練が行われ、自主防災隊が組み立て方法を学びました。また、停電を想定し、トヨタグループとの災害時連携協定に基づく給電車配備訓練が行われ、参加者は給電車から送られた電気で照明や扇風機などの電力が確保できることを確認していました。

訓練の最後には、旧冬部小中学校舎で火災が発生した想定で消防団の火災防衛訓練が行われ、馬淵川からの中継送水を行い、スムーズに消火活動を行いました。

冬部協議会自主防災隊の小倉廣身隊長は「訓練をきっかけに今後も地域の安全確保に努めていきましよう」と住民に呼び掛け、参加者は防災の意識を高めていました。



避難所にパーティションを設置する自主防災隊



非常食の種類や取り扱いなどを確認する参加者



中継送水の手順を再確認した消防団の火災防衛訓練

住民と首都圏学生の交流温かく

8月28日と29日、首都圏の大学生が町民と交流を深める「チェンジメーカーコースダイプロگرام」が町内で開催されました。

この事業は、地方創生への関心が高い首都圏の大学生を受け入れ、住民との交流や地域活動に関わることで町への愛着を育み、継続的な若者の関係人口を創出しようとする町が初めて開催したものです。参加した13人の大学生は、当初は夏休み中に2週間ほど町に滞在する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、オンラインに変更して町民と交流しました。

交流会では町内の商工業者9人がパソコンの画面を通じて交流し、町の様子や自らの仕事などを紹介しました。長年靴屋を営む佐藤侑さん（新町）は、「とてもまじめな学生たちで、町のことをよく調べており、すぐに話が弾みました。町に来たら温かく迎えて、そ

ばがきやひつみつみを食べさせてあげたい」と話していました。

茂木駿太さん（早稲田大学4年）は「町の皆さんの温かさに触れ、自分の価値観がより澄まされました。これからも葛巻町に関わりたいため、冬休み中のプログラムでは絶対に葛巻町に行きたい」と今後の活動に期待を膨らませた様子でした。



オンラインで学生と交流する商工事業者の皆さん